

<p>児童の実態</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽に対して、気付いたことや感じたことをもとに、考えを書いたり発表したりして表現できる児童が多い。 ・様々な活動に対して、意欲的に楽しんで取り組める児童が多い。 ・歌唱の活動で元気に歌うことができる児童が多い一方、音の高さや表現の工夫などを意識して歌唱に取り組むことができる児童が少ない。 ・苦手意識のある活動に対して、取り組もうとする意欲が低い児童が複数名いる。 		
<p>授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<p>視点1 上二小授業スタンダードの徹底</p>	<p>視点2 読み解く力の育成</p>	<p>視点3 「探究の時間」またはその他の教科との連携</p>
	<p>児童が主体的に取り組むべき課題を把握できるよう、毎授業でめあてを明確に提示し、授業の最後に振り返りの時間を設ける。</p>	<p>音と文章を結び付けて考える学習を取り入れることで、文章から読み取ったことと音という文章以外のイメージを結び付けて考える力を養う。</p>	<p>日々の生活の中で音楽との関わりを知るために移動教室や特別活動等様々な教科と音楽を結び付ける取り組みを行う。</p>
<p>その他 授業改善に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に対して苦手意識のある児童が取り組みやすいよう、児童が興味関心をもつ教材を取り扱ったり、スモールステップで達成感を得られるように活動内容を工夫する。 ・児童にルールの必要性を説明した上で、どのような形態であれば児童がルールを守れるかを工夫する。 ・児童が授業で学習したことを、他の単元の学習や実生活で生かすことができるように、学習内容を工夫する。 ・歌唱の学習では、ゲームや他の活動（鑑賞や器楽）と関連付けながら、思いをもって歌唱に生かせるように活動を工夫する。 ・児童のよりよい学びにつながるよう、働きかけたことに対して児童がどのような反応をみせるかをふまえながら、指導と評価の一体化が行えるように努める。 		

